

# 小樽・中央市場に親子の声

## 樽商大生が活性化イベント

小樽商大生が企画した中央市場(小樽市稲穂3)の活性化イベント「中央市場を元気にする春まつり」が14日、中央市場2棟で開かれ、多くの親子連れでにぎわった。

(谷本雄也)

### 店の人とクイズゲーム

「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト(マジプロ)」科目を履修する学生4人が中心になり、親子の来店者を増やそうと企画。店舗



の人と対話しながら答えを探すクイズゲームや、ドライフราว(マジプロ)などを瓶に入れて専用のオイルに浸した雑貨「ハーバリウム」の工作体験を行った。駄菓子店の販売などもあり、子どもたちの人気を集めた。

市立幸小1年の安田翔<sup>あき</sup>君(6)は「とても楽しかった。遊ぶ場所があれば、また来たい」とにっこり。マジプロのメンバーで2年の山本明日香<sup>あすか</sup>さん(19)は「小さな子どもがたくさん来てくれてうれしい。今後市場の活性化に向けて何ができるか考えていきたい」と話していた。多くの子どもたちが訪れた中央市場の「春まつり」

# 文化

坂本さんが提唱する経営学をどう見るか。「日本でいちばん大切にしたい会社」を読んだ金鎔基小樽商大教授(経済史)に聞いた。

坂本さんの本には、胸が熱くなる感動的な会社のケースが多く出てきます。他方、日本の多くの経営学者は、企業の社会的



金鎔基小樽商大教授

責任、企業の本業の中で社会に役立つ共通価値の創造、ソーシャルビジネスと呼ばれる社会的起業などの観点から今後の企業経営の研究を進めています。

## 金鎔基小樽商大教授

### 旧習乗り越える知恵

を解決し、資本主義経済を繁栄させてきました。ところが、この枠組みがうまく機能しなくなってきました。制度的なイノベーションが求められており、新

るな刺激があり、ひらめきが出て、そこから新たな試みが出てくる可能性があります。

地域への思い入れがやや強すぎて、人を地元に残し留めようとする節もうかがえますが、グローバルな市場、グローバルな社会では、人の動きを止めることはできません。

それらと坂本さんが挙げるケースがどういう関係になるのかは、はっきりしません。戦後の先進国は、企業と労働組合が折衝する枠組みで貧困問題や働き方など多くの社会問題

しい仕組みをどんどん試す必要があります。その観点から見ると坂本さんの本は、多くのヒントやアイデアが詰まった事例集として読めます。読む人によって、いろいろ

それを前提に考える必要はありませんが、企業こそ、旧習を乗り越えて社会の新しい仕組みを見つけて出す主役になりうる、という趣旨は正しいと思います。社長が「こつしよう」と言えばできるのですから。